

ビオトープとは？

ビオトープ (Biotop) とは、ドイツ語で「地域の野生の生き物が暮らす、あるまとまった空間」のことです。樹林・池・川・草地・河原のひとつひとつがビオトープです。トンボが暮らすには、産卵やヤゴが育つための池や湿地が不可欠です。チョウには、花や幼虫の食草が必要です。

ビオトープを作った目的は何か？

失われつつある地域の自然を復元し、生き物を守るのが目的です。向笠小ビオトープのモデルとしたのは、最も生物相が豊かな磐田原台地の東縁の入り組んだ崖とそれに囲まれた湿地や池である桶ヶ谷沼や鶴ヶ池です。

向笠地区の恵まれた自然環境を生かして自然に親しみ・守る活動を行い、豊かな自然に触れ、自然の力、美しいものや不思議なものに感動し、それを守り伝えてほしいと思います。

学校ビオトープは、季節の変化や生き物を観察するだけの場ではありません。自分たちが工夫して生き物を呼ぶための仕掛けを考え、環境を作り上げていく主体的な活動をしてください。また、自然環境を守るために自分たちができることを見つけしてほしいと思います。

利用するときには注意することは何か？

- ・ 他から生き物を入れないこと（魚、ザリガニ、ヤゴ等）
- ・ キャッチ＆リリースすること
- ・ 虫元気の柵の内側・堤防に入らないこと
- ・ 池に物を投げ入れないこと
- ・ 元の状態に戻すこと